



水

北九州市

29

BESS北九州へ行こう!!

丸い家、四角い家、三角屋根の家、シブい家…個性たっぷりの木の家や楽しいインテリア、気持ちいいウッドデッキや庭。BESS展示場には、「こんな風に暮らしたら、楽しそう!」のヒントがいっぱい。今度のお休みは、BESS北九州展示場に出かけてみては?



ようこそBESS北九州展示場へ!
オープンから22年間で、**48,000組**のお客様に
ご来場いただきました。
寛いで見学いただけるよう、
スタッフの付き添いはありません。
お気軽にご来場ください。

自宅として楽しむログハウス 個性あふれる木の家の内部に潜入!

ログハウス=山小屋の別荘と思っ
ている人も多いのでは?実際は、
9割の人が自宅として住ん
でいます。木のぬくもりい
っぱいの家、街の中に、
今とどんぞん増えています。

どんな365日に
なるんだろう?

お家に
いろんな顔がある。
おもしろ〜!!

読書? BBQ? どう使う? どの家にもウッドデッキが!

すべての家にキッチンがあるよ
うに、すべての家にウッドデッキが!
“大空の下のリビング”を、
暮らしに欠かせないアイ
テムと考えている BESS。
この空間、どう使うかは
住む人次第?
◎あきつログハウスは、
ウッドデッキの代わりに、
庭の楽しみを提案しています。

晴れた日が
楽しめる空間!

理屈抜きに、五感で感じてみて! 吹き抜け・天窓のある空間

同じ㎡でも、広く明る
感じるのはなぜだろう?
心がおだやかになるの
は、どうしてだろう?
BESSのキーアイテム・
吹き抜けや天窓の持ち
ちよさはカラダで体感し
ないといけない!
何だか
気持ちいいなあ…

「カッコいいね」「なんだこれ?」 楽しい暮らしが想像できるインテリア!

そこに住んでいる人の顔が
見えてくるような、凝ったイ
ンテリアも面白い!家を見
に来たつもりが、小物や家
具に見入ってしまいました!
という人もしばしば。

ひとつひとつに
すごいこだわり!

このまま住めるんだあ。 標準プランで実際の暮らしを体感

豪華絢爛なモデルハウス
に憧れて家を見て「展示
場は良かったけれど……」
という気持ちになるのは何
とも…。見学できる建物は、
等身大の標準プランだから、
実際に住んだときの感
覚がわかりやすい!

住み心地が
実際にわかる!

映画の世界だけじゃなかった! やっぱり羨ましい「薪ストーブ」

ログハウスと言えばやっぱりこれです。
薪の炎を見つめていると人間の気持ちは
穏やかになるのだとか。
BESSの住人の半分以上の人が、
薪ストーブを設置するとい
うデータが。
◎ストーブ一台でハイブリッド車
5台分!CO₂削減効果
もあるエコな暖房として
注目されています。

わが家にも絶対ほしい

2019年にBESS博多の店が決定!! スタッフ募集を行います。詳しくはご連絡ください。

「住む」より「楽しむ」 BESSの家

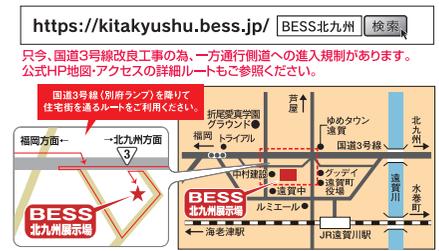
BESS北九州展示場

Phone:093-291-1700

〒811-4331 福岡県遠賀郡遠賀町別府3713-3

- 営業時間/AM10:00~PM6:00
- 定休日/水曜・木曜(祝日は営業)
- 交通/車:国道3号線遠賀バイパス側道沿い黒崎ICより約20分・古賀ICより約40分

株式会社BESS福岡



BESS安心総合保証

BESSなら建てる前も建てた後も安心。
建て替え、住み替え、用地転換、住宅ローン等、お気軽にご相談ください。

役務工事
完成保証

50年保証
手帳型
5年保証

マテナス
サポート
ご要望

万が一のことがあっても、保険法人が建物の完成まで保証します。

最長50年まで、
無料で住宅瑕疵
保証をします。

定期点検、24時間
電話受付など建
築後のサポート
が万全です。

街を流れる川の名は。

福智山系に水源を発し、小倉南区から小倉北区を経て響灘へと注ぐ紫川。立派な二級河川でありながら、昔話に出てくる小川のような長閑な名の由来をたどってみると、実におもしろい。



『豊前国史』によると、川の東にある足立山の山肌が紫色に映える時、川面にその色が映り呼び名が付いたとある。小倉南区の蒲生という地区には山藤が多く咲いているという話もあるが今となっては定かではない。あるいは、河川上流にある平尾台が古くから紫の生野と呼ばれ、反物を染めるムラサキ草が自生していたから、という説や、小倉北区紺屋町の染物屋の染料が川へ流れ込んだから、という話も。小倉城主だった細川忠興が、かつて居た丹後の国に流れていた川の名を冠したという単純な説もある一方で、木町橋(袂?)の蛇湖にすむ童が、時々「紫の氣」を吐くという伝説や、エビスという名の漁師に恋した娘が、藍に染めた木の実を流して想いを伝えた、など、切ない恋物語まで飛び出し、諸説尽きない。

蒲生に実在したといわれている。この蒲生の地で、鎌倉時代に創建された大興善寺の現住職によると、古地図をたどれば、紫川の副流が境内の目の前を流れていたことは確か。紫の池はもともと、副流に端を発する*三日月湖だったはず、と。さすれば、詠み手の愛おしい人が袖を濡らしたその池が、川の名の由来となったというのも一理ある? もっとも、時代と共に田として埋め立てられた湖は、寺所有の『福岡県名所図録図絵』(明治時代)に描かれる頃には、参道の脇に弁天様を祀った小さな小さな御池となっており、現在は県道の下へ姿を消している。雅な川の名の真相は依然闇の中である。

豊国の企救の池なる菱の末を摘むとや妹がみ袖濡れけむ(万葉集卷十六)

平安時代、企救の池と呼ばれたこの池はまたの名を紫の池といい、現在の小倉南区

*三日月湖 蛇行する河川の曲流部が分断され、水が取り残され形成された湖。

目次

雲のうえ 29号

特集

北九州、市民の水。

1 街を流れる川の名は。 文〳〳〳のやももこ 絵〳〳〳牧野伊二夫

2 水の旅・前編
飲み水の道をたどって。
写真〳〳〳久家晴秀 文〳〳〳のやももこ 絵〳〳〳牧野伊二夫
井手浦浄水場/ます瀬ダム/穴生浄水場/菅生の滝/日明浄化センター

22 蛇口をひねって水が出る。
これって本当はすごいこと。
写真〳〳〳久家晴秀 文〳〳〳のやももこ 資料協力〳〳〳北九州市上下水道局

28 水の旅・後編
川のほとりのものがたり。
写真〳〳〳久家晴秀 文〳〳〳のやももこ

45 水よ、川よ、故郷よ。
北九州、水にまつわる情報ページ。
文〳〳〳のやももこ

「雲のうえ」29号
表紙写真〳〳〳久家晴秀
絵・題字〳〳〳牧野伊二夫
アートディレクション〳〳〳山達也
編集〳〳〳のやももこ
校正〳〳〳齋藤晋
©北九州市 2018
本誌記事・写真・イラストレーションの無断転載を禁じます。

特集

北九州、市民の水。

写真：久家靖秀
文：つるやもとこ
題字：絵：牧野伊三天

朝起きていちばん初めにする
こと。蛇口をひねって、顔を
ジャブジャブ。歯を磨いて、
トイレに行って、キッチンで
湯を沸かす。日常は、いつも
水と共に始まる。水がなくて
は生きられない。だって私たち
の体の80%は水分で、一日に
約2〜3リットルの水分摂取が
必要ともの本にも書いてある。
ではでは必要不可欠なその水
は、いったいどこからやって来
るの？あなたの家の蛇口をス
タートに水が来た道を遡って
みる。街に流れる川を上流に向
かって進み、水の源を探しに行
く。



北九州市の水道マップ

市民の水はどこから来るの？



北九州市の水源は、遠賀川水系（青線）と今川・紫川・山国川水系（緑線）の2系統に分かれ、水の道は東西に分かれて成り立っている。

水の旅・前編 飲み水の道をたどって。

水の旅は台風と共に？

数日前に発生した台風19号を気にかけてながら空港に降り立ったが……、晴れていた。肩透かしを食らったようで、でも油断はできないぞ、と気を合を入れる。今年はや早い時期から台風が次々と発生し、地域によっては大きな被害をもたらしている。後ろにはさらに20号も控えていて、天気予報を見れば、2つの渦巻きが九州の方をにらみつけているのではないかと。空から降るひとしずくは、生活の大切な資源ではあるけれど、時に大きすぎる自然の力に、どうしようもなく翻弄されるのが人のさだめ……。

出だしから感慨深くなんでこんなことを思うかといえば、今号のテーマは「水」なのである。

たとえば、蛇口をひねれば当たり前のように流れる水道の水。その水が一体どこから、どうやって、どんな道をたどってあなたの家まで届くのか？ そんなこと、久しく考えていなかったんじゃないでしょうか。はい、私自身この旅をきっかけにさっそく在住地を管轄する水道局のホームページを開きました。住所を打ち込めば、家庭の蛇口がどの浄水場に繋がっていて、その水がどこから取水されているのかすぐにわ

かる。クリックすれば各浄水場の水質検査の結果も一目瞭然。日本の水道の歴史が横浜より始まって1331年。時代を経て今、なんと恵まれた生活を当たり前のように享受していることだろう。

北九州の上水

話を北九州に戻すと、この地の上水道インフラの歴史は107年前、明治時代に遡る。合併前の旧5市の中で、最初に事業が始まったのが門司市。それは、門司港に出入りする外国船の数が増え、伝染病の予防や船への給水が不可欠だったからで、翌年に若松市、そのまた翌年に小倉市と続けて着手となったのは、若松は石炭積出港、小倉は陸軍拠点として事業を加速する必然と必要があったからだ。

「上水道の布設は近代化の象徴」。社会科の教科書のようなフレーズが思い浮かぶ。ちなみに、この頃すでに創業していた八幡製鐵所（現・新日鐵住金）は、工業用水を自前で貯水（河内貯水池）、取水（遠賀川からも取水）、送水する設備を整えていたそう。それぞれの市の水道事業が、とにもかくにもとりあえず完了したのは1931（昭和6）年のこと。ど



井手浦浄水場

1972（昭和 47）年完成の浄水場へは、4つの貯水池等から原水が送られてくる。大分の耶馬溪貯水池（垂水取水場）からは、なんと約 50kmもの道のり。山間部ならではの清流を水源とすることをアピールするため、ヤマメの養殖、わさびの栽培を行っている。



日差しの中、上水の仕組みをひと通り見学した後は、浄水したてのほやほやの冷たく冷えた水をどうぞ。水に対する考え方も、大切に思う気持ちもひとしお。井手浦浄水場にて。

の都市にもいえることかもしれないが、その後、人口増加や産業の発展によって、原水（資源）をどこから、いかに得ていくかという課題は尽きず、それに尽力した人々の奮闘もまた記録し尽くせぬほどあったに違いない。

現に、市の水源（貯水池・河川）の約8割は市外からの供給に頼っているそうで、海に近い、河川の下流に位置する北九州市は、上流に住む人々の理解に支えられていると、取材に訪れた上下水道局関連施設の方の口からも何度も耳にした。

北九州東部の水の道を行く

快晴、そして真夏のジリジリとした暑さ。しかし、明日は大雨暴風圏内かもしれない。そんな不安を抱えながら北九州の水の旅は始まった。まず向かった先は、小倉南区にある井手浦浄水場だ。井手浦は、国内屈指のカルスト台地、福智山系・平尾台の麓にあり、水が豊富で米や野菜を育てる農家も多く暮らす、自然環境に恵まれた地域だ。国道を走ると、遠くに緑深い山並みと緩やかな棚田が見えた。

井手浦浄水場は1972（昭和47）年に操業した基幹施設。その1年前に完成した油木貯水池（田川郡添田町）をはじめ、市内のます瀏貯水池、紫川（葛牧取水場）、遠くおよそ50km離れた大分県中津市にある耶馬溪貯水池（山国川水系／垂水取水場）からも取水・送水されてくる原水を浄水している。北九州市の上水道施設の東部の要ともいえるここでは、なん

と1日に25万m³の水を供給する能力があると聞いて、気が遠くなった。数字だけ聞いてもピンとこないが、1・5リットルのペットボトルでいうと：イチオクと：何千万本？ 井手浦の供給量だけで市全体の約33%をまかなえると聞いてようやく納得。市内の浄水場は全部で5カ所あるが、門司区と、小倉北区・小倉南区（一部を除く）と、市の東部（一部の八幡東区・戸畑区を含む）を網羅する重要施設ということは間違いない。

この敷地の中に、わさび床とヤマメの養殖水槽があることは知る人ぞ知るところ。「わさびの香る浄水場」と、銘打って苗の試験栽培が始まったのが25年前。わさびもヤマメも清流、ことに年中一定した低い水温環境でしか生息できない。井手浦の原水がいかに清らかなものか、その水の大切さを見学に来る子供たちに知ってもらおう、という取り組みで、きっかけは、一職員の提案だったという。青々と茂るわさびの苗、勢いよく泳ぐヤマメの群れを見てはしゃいでしまう。水の冷たさ、清らかさは一目瞭然だ。

案内をしてくれた村岡和也係長は、「管理担当者の人がいろいろ試しています。わさびの品種を変えてみたり、ヤマメの水を扱う場所なので、誰でも気軽にどうぞいらしてください、と言えないところが残念なんですけれど」と言って申し訳なさそうに笑った。わさび床を後にして、貯水池や川から送られてきた水が集められた着水井、段階的に濁りを沈めていく



夏は冷たく、冬は温かく感じられる水温13～15度前後の水が、ヤマメとわさびが育つ条件。植えられたわさびは560株！ヤマメは毎年11月頃に人工授精を行っている。

とある扉を開けて階段を降りると、巨大な管が目の前に。貯水池等から送られてきた原水は着水井を経てモーターで制御された原水流入弁を通り沈澱池へと送り込まれる。



二〇一八年六月二十一日
井手浦浄水場
伊三夫

ます淵ダム

紫川の起点にほど近い小倉南区頂吉にあるます淵ダム（ます淵貯水池）は多目的ダム。治水だけではなく上水利用やかんがい、工業用水確保、水力発電などいくつもの機能を備えている。



沈澱池、さらに細かな埃や汚れを取り除く濾過池を順番に覗かせてもらう。太陽の光を浴びてきらめく水面に空の色が映り込んで、みごとに青さ!! 深さは4m以上あるそうだが、水の底まですっきり見える。その透明度に一同から驚きの歓声が上がった。柵から身を乗り出すと、水面に麦わら帽子の影が映っていた。ああ、このプールに飛び込みたい。気分はすっかり社会科見学の小中学生である。

魅惑の滝つぼ

井手浦浄水場を後にして、福智山系の山々が連なる西へ向かうことにした。紫川の支流にあたる細川沿いに車を走らせ、途中、1913（大正2）年完成の道原浄水場に立ち寄る。5市が合併し、合理化に伴って水の流れが変わり、他の浄水場やポンプ場などが廃止されても、山あいにあるこの浄水場は廃止されることなく大事に使われてきた。建物の一部は、近代化産業遺産にも指定されているという。

この道原浄水場のさらに上流に、菅生の滝と呼ばれる滝があり、夏は市民の避暑地になっていると聞いて行ってみたい。途中車を止め、徒歩で川づたいの山道を登って行きた。ほどなく空気が変わる。

マイナスイオンというものが一体なんなのか？ 未だに説明できないけれど、流れている水のそばに佇むと、それだけで体の力が抜けて気持ちよい。周囲には親子連れも多く、天

然のプールとばかりに子供たちが元気よく水遊びをしていた。岩に腰掛け、滝のミストを肌に浴びながら、目をつむって福智山系の水の豊かさを体で感じる。深く息を吸った。

すると、後方でゴソゴソと動く何かの気配。振り返ると、岩陰ですっかり準備を整えて、おもむろに入水する連れがひとり。意外と深いなあ〜などと言いながら、かつて高校水泳部で磨いた腕前を披露している。帰りはどうするんだろうなどと、野暮なことは言わない。自分だって、井手浦浄水場の沈澱池の真っ青な水に、飛び込みたいと思ったのだ。今年の狂った暑さに辟易している体には、絶好の場所ではないか、菅生の滝。ちなみに、ここまで小倉の都心からわずか30〜40分の距離である。

ます淵ダムのほとりにて

ずぶ濡れになったパンツと手ぬぐいを後部座席にはためかせ、西に傾きかけた太陽を気かけながら、県道を登ってます淵貯水池（ます淵ダム）へ。市内を南北に流れる紫川の上流にあるこの場所は、市の東部の大切な取水池の1つ。周囲に造られたサイクリングロードのおかげで、季節折々の自然を散策しに訪れる人も多く、市民と距離が近い水源池ともいえる。

車から降り、貯水池を渡る道をまっすぐ歩いて進む。この道、実はダム堤でもあり、左を見れば水面が広がり、右手は

断崖。下を眺める。堤の高さは約60mで、なかなか足のすくむ高さだ。ここは多目的ダム。

調べれば、福岡県の河川開発が始まったきっかけは、1953（昭和28）年に起きた集中豪雨（北九州大水害）だったようで、この時、筑後川はじめ九州北部を流れる河川がほぼ全て氾濫し、被災者数は100万人を超えたといわれている。しかしながら、ます湖ダムの建設が着工した1968年前後は、西日本一帯が頻繁に大小の濁水に見舞われていた時代。水道土木の歴史は、災害や水不足など自然に翻弄された人々の教訓と共にある。そうした先人の努力は、今、山の緑を映して静かにきらきら輝く水面からは、到底想像がつかない。先人に感謝しかない。

使い終わった水の行方

日をまたぎ本日も晴れ。水の神様が取材を応援してくれているのか。台風19号は九州の西にそれ、追いかけてきた20号は予報よりも大きく東へ旋回。ダブル台風は、北九州をサンドする形で去っていく模様。まるでモーセの十戒……。海こそ割れぬが取材続行の道はひらけた。

朝から訪ねたのは、日明浄化センターだ。水源池や上水道の道をたどってきたが、使い終わった水の行方も知りたいと、市に5つあるセンターの1つを訪ねた。センターでは、1日に最大約26万m³の下水を浄化し、洞海湾へと放流している。

下水道整備の歴史を見ると事業が本格化したのは、5市が合併した1963（昭和38）年。意外と遅い。街を流れる紫川には1970年代前半までは生活排水が流入していたことを聞いたが、上水道に比べ下水道整備が遅れるのは、どの国でも同じだそう。インドネシアやベトナムなどアジア各国が、今、頻繁にこの施設に研修にやって来るのも、上水道インフラがひと通り目処が立って、次の問題に目を向ける時期がきている、ということらしい。

ところで。汚れた水を浄化する技術の要は何かと聞けば、それは微生物！ マイナス200度から150度の高温下でも生きられるクマムシ、滑るように動くというフトヒゲムシ、名前は聞いたことがあるアメーバなど多種多様な微生物が反応タンクと呼ばれる水槽の中で汚れを食べ、最終的にその汚れと一緒に汚泥（活性汚泥）となって水の底に沈む（最終沈澱池）というのだ。近代的設備の中で極小生物が生命活動を営んでいる！人間のためにせっせと働いてくれている。

「くらしを支えている下水道。それはお家のくらしの出口でもあり、そして地球への入り口でもあるんだよ」「よごした環境をもどすよりも、初めからよごさない方がずっとラクかも」。浄化センターに見学を訪れる子供たち用の展示パネルに書いてあった。全くその通りである。大人たち一行も激しくうなずく。山の源流、貯水池、浄水場を巡り、最後は浄化された水が再び注ぐ洞海湾を眺める。風は強いが、空は澄み渡っていた。（後編へ続く）

あのお 穴生浄水場

1961（昭和36）年より稼働。遠賀川、力丸貯水池、頼田貯水池から取水、浄水している。微生物による自然浄化作用を利用した「上向流式生物接触濾過設備」を導入したハイテク浄水場として、北九州市西部の上水を担っている。

菅生の滝

水源は福智山。紫川の上流、道原の国有林内に流れる滝。この名の由来に、滝のしぶきで女性の化粧もすっかり落ちて「すがお」になってしまうからとの説もあり。夏は親子連れで賑わう避暑地。

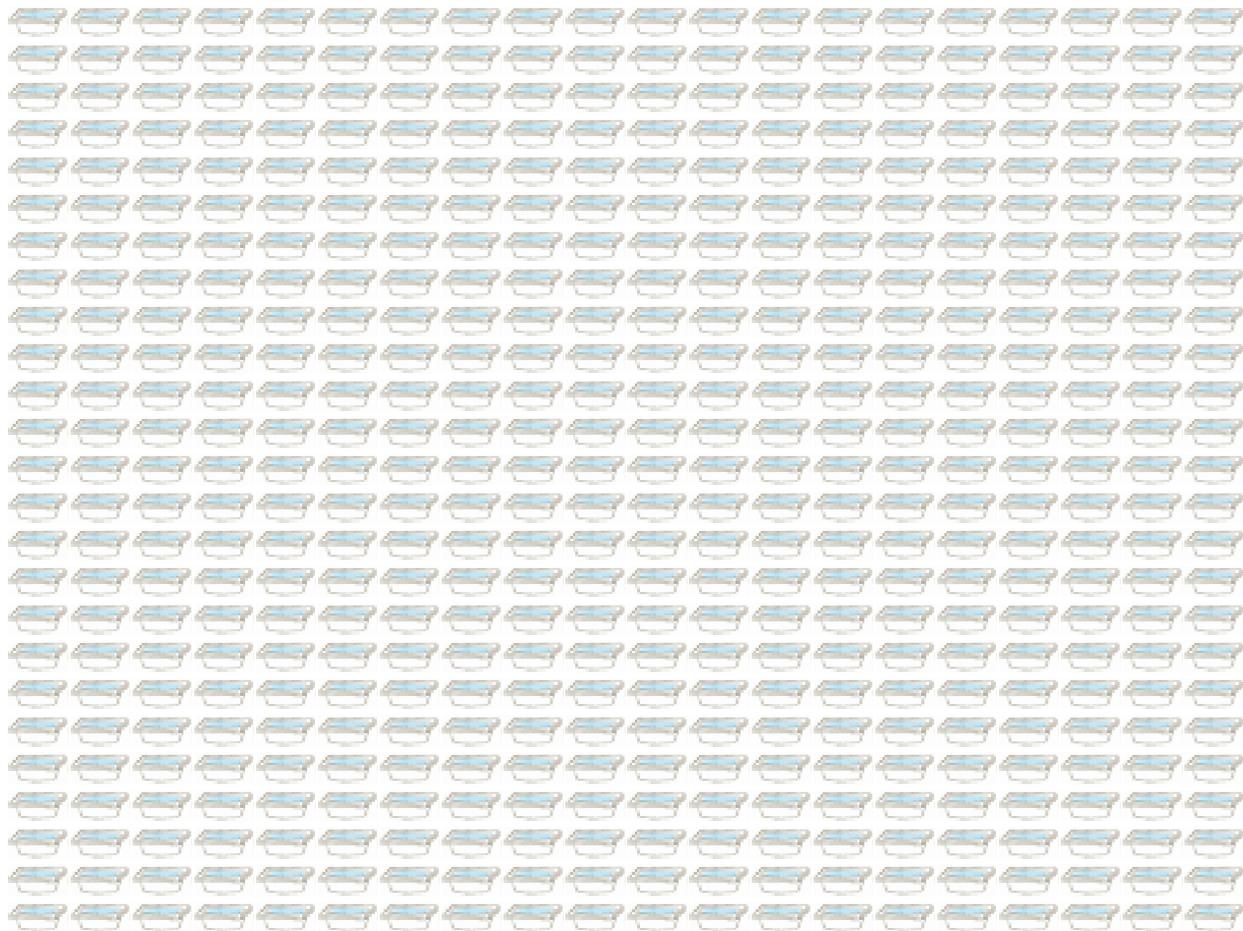




使用済み天ぷら油
500ml

台所で
天ぷら油 500mlを
流した時、
魚がすめる水質にするには
バスタブ500杯の水が必要。

日々使った水は、下水管を通して浄化センターへ運ばれます。市内で流す汚水の量は、1日でおよそ41万mlにもなるそうです。ところで下の絵をご覧ください。たとえばマヨネーズと、天ぷら油を下水に流した場合、何ℓの真水で薄めれば、魚がすめるほどの水質に戻るかを表現してみました。バスタブの容量を300ℓと設定して、どうぞ計算してみてください。



マヨネーズ
大さじ一杯/十五ml

台所で
マヨネーズ大さじ1杯を
流した時、
魚がすめる水質にするには
バスタブ13杯の水が必要。



バスタブ





日明浄化センター

市に5つある浄化センターのうちの1つ、洞海湾に面して建つ日明浄化センターは、1970（昭和45）年に運転を開始。家庭等で使われた後の汚れた水は、微生物の力を借りて汚れを分解し海へ戻している。



小倉北区某所のとある事務所へやって来た。ここが市民の水とどう関係があるの？と思った方。『大あり』です。タイトルの通り、なぜ「本当はすごいこと」なのか。『ジオクラフト』の石原均さんと西村ゆかさんにお話を聞きながら、今から少しずつ説明していくとしよう。

まずはおさらい。私たちが普段飲んでいる上水道を蛇口から水源へ遡ってみる。家庭の蛇口と直接繋がっているのは給水管と呼ばれる管。給水の方法には大きく2つあって、送られてきた水を一度タンクに貯める水槽式給水と、流れてきた水をそのまま給水する直結式給水がある。この給水管は配水管へと繋がっていて、配水管は配水池と直結している。配水池は浄水場と送水管で繋がっていて、浄水済みのきれいな水を貯めておく場所だ。山など高台に造られていて、水が高いところから低いところへ流れる働きを利用して、基本は圧力をかけずに水を街に送る仕組み。浄水場へと運ばれる河川や貯水池の原水は、導水管で結ばれている。

蛇口をひねって 水が出る

これって

本当はすごいこと

さて、もうお気付きの通り、これら水の道はほぼ地中に埋まっているので普段は見えない。しかも上水のみならず、下水道、電気、ガスなど、都市の地中は縦横無尽に走る管だらけ。ライフラインとはよく言ったもので、まさに人間でいうところの動脈静脈が、私たちの近代生活を支えている。

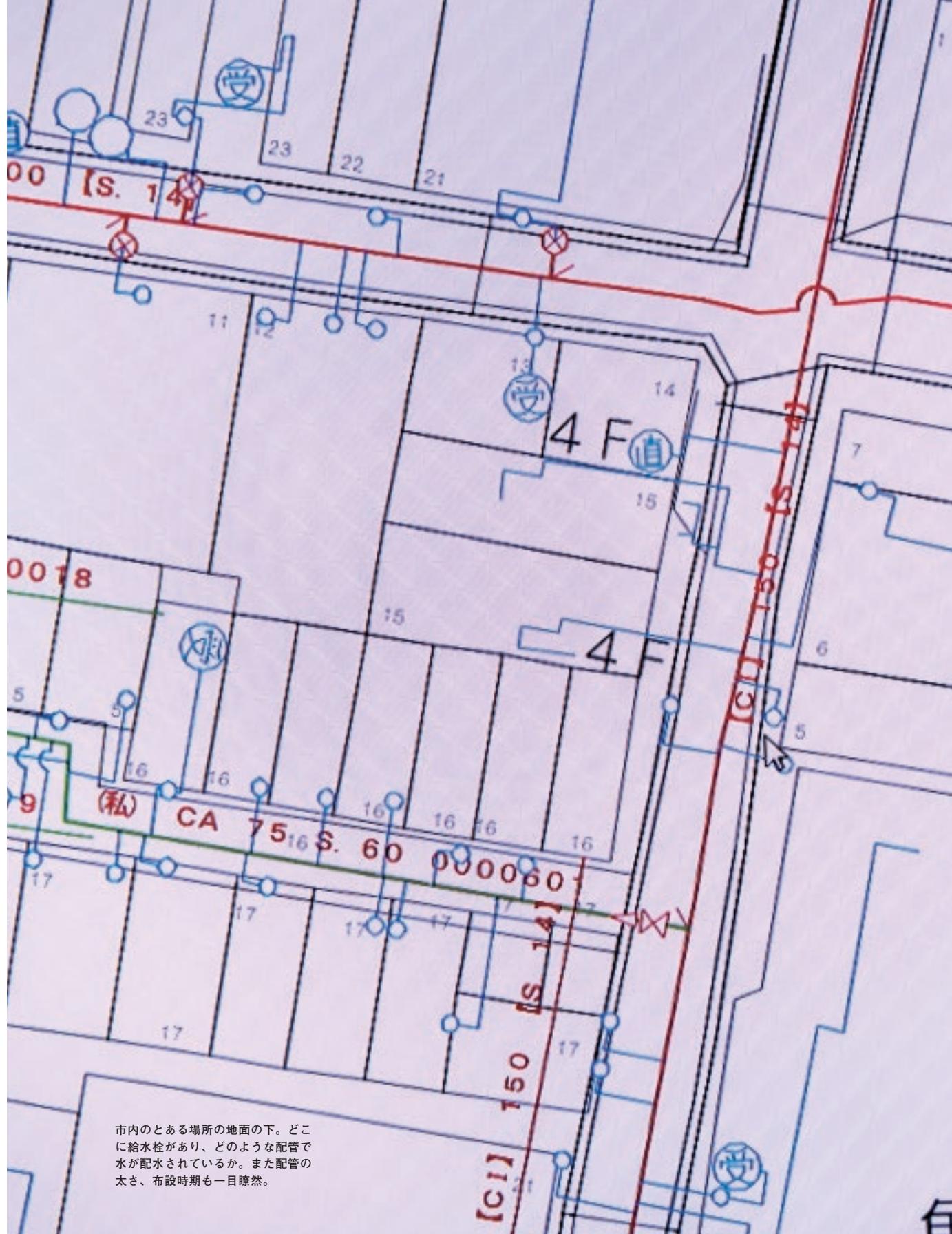
「北九州市内の配水池から各家庭（給水栓）を繋げる配水管の全長は約4100kmあります。距離にすると、小倉からマレーシア

ぐらいですかね」。ジオクラフトの代表、石原さんが淡々と言葉にする。実感は湧かない。だが、果てしないことだけはわかる。

この果てしない配水管および給水管が都市の地下でどういう道筋と深さでどのように張り巡らされているのか。ジオクラフトは、これをコンピュータ上に全てデータ化して一括管理するシステムを構築し、データを市の上水道局に提供している。言葉にすると簡単に聞こえるが、明治時代に始まって、突貫工事を繰り返してきた水の道は複雑極まりないはずで、その見えない道をマッピングすることなど果たして可能なのか。素人の頭には「？」しか浮かばない。

「事業の始まりは30年前、平成元年に計画を立てて、その2年後から作業に入りました。もちろん最初はゼロからのスタート。地表は透けて見えませんが、とにかく歩くわけです」

工事記録を頼りに、区ごとに配水管の全長距離から調査の日数を逆算し、社内の若手10人ほどで班に分かれてひたすら調査。地表に出ている目印は、バルブ（仕切弁）と消火栓。見つけたらアナログの地図にプロットしていく。ちなみに、当時は携帯電話もない時代。孤独なオリエンテーリング



市内のとある場所の地面の下。どこに給水栓があり、どのような配管で水が配水されているか。また配管の太さ、布設時期も一目瞭然。

よろしく、その日の目標業務が終わると、公衆電話から報告が入ったという。

しかし、そうやって地道にくまなく歩いて、どうしても記録と繋がらない矛盾が出てくる。頻繁に工事を繰り返して、目印さえ地表の下ということもあったそうで、困った時にはどうしたのか尋ねると、「水道の神様がいましたね」と。

へっ？ カミサマ？ 実は、神様とは市の水道局のベテラン技術者のこと。当時は、北九州市が合併する前から高度成長期の水道事業に携わってきた、たたき上げの技術者がざりざり定年前で在籍していたそうで、彼らに聞けば大抵のことが解明されたという。

「ある時は、神様がコッペパンをかじりながらやって来てですね、一緒に現場を歩くんですよ。すると、ここで事故が起こるとどこかで赤水が出るか、赤水を逃がすためには、どの消火栓を開ければよいか、そして何分経てば水がきれいになるか……説明をしてくれる。（水の道が）全部ここに入っているんですね」と、石原さんは自分の頭を指差す。目印などなくとも、配管のみならず、水の方向、流量、水圧、職人は全てを熟知していたそうだし、90のブロック分けがされており、配管全

長を50km程度に収めることで、不都合が起きても速やかに対応できるよう管理されている。

「何より私たち自身が、この事業に携わって、インフラの仕組みはすごいなあと思う感じがしました」と石原さん。隣で西村さんもうなずく。

一方で、水道管布設の時代は終わって、これからは維持管理の時代、と。西村さんがパソコン上でグラフを見せてくれる。グラフには大きな山が2つ。これは水道管布設の件数を表していて、この山はこれ以上高くなることはほばない。その代わり、老朽化した管を更新していかなければならない、という。

「人間と一緒にです。もともと丈夫な奴もいるけど、古くなったらだいたいガタがくる。それも、環境によって変わってくるから、それぞれを見極めてメンテナンスしてあげなくてはいけません」

水道管の耐用年数は素材や環境にもよるが、約40年。市では、現状、年間50kmほどの布設替工事を行っていて、1万件を超える（1年で）給水管工事が行われているという。そのため、『ジオクラフト』では、給水マップインフラシステムの他に、水理解析のシステムも構築して、提供している。水道管のトラブルや災害による思わぬ事故で、給水の道が途絶え

ても、水の流れを解析、変更することで、断水地域を最小限に抑えることができるというわけだ。

「でも、システムに完成はありませんから。正確なデータを維持し続けなくては。神様にどれだけ近付けるかな」と、石原さんが控えめに笑う。

ところで余談。後日、紫川大冒険（P28）に参加したところ、ボランティアスタッフで関わっていた1人の男性と立ち話をしていて、なんと昭和30年代に北九州水道組合に入り、定年まで水道業務に携わった方だと判明。思わず心の中で叫ぶ。

「石原さん、水道の生き神様いましたよ！」
登本健一郎さんは、たたき上げの技術者で、若松から始まった職人人生を37年間続けたという。パワーシヤベルなどなかった時代、水道管布設のためにツルハシを担ぎ自転車で乗って現場へ赴き、何十メートルもの穴を掘ったそう。

蛇口をひねって水が出る。
ね、これってやっぱりすごいこと！

ジオクラフト

地理情報や情報システムの設計と開発、データ構築などを手がける。水道施設管理システム「Aqua Crew for Water」下水道施設管理システムは、海外への技術提供も行う。

生活にエフェクトを

大型フラワーショップ



FUKUOKA GHB
EFFECT

福岡市西区西の丘
2018.10.27.sat
**GRAND
OPEN**



生活に、花のあるエフェクトをプラス！
～花と語らう楽しみ実感！新感覚のフラワーショップ～

行橋の地で滞在型フラワーショップとして親しまれている「ゆくはし植物園」。
その想いと特徴を引き継ぎ、生活にエフェクトを加える新店舗が、
福岡市西区西の丘に誕生しました。

『GHB Fukuoka Effect』という名の、大型フラワーショップ。
お届けするのは、いつもの生活がよりみずみずしくなるアイテム。

ご提案するのは、花のある暮らし。
福岡市をもっと花と緑のゆたかなまちにしたい。

日本全国の農家さんと繋がり、豊富な品ぞろえを実現、
リーズナブルな価格も魅力的。
花のメンテナンス等のアフターサービスも万全です。
さらに、広いフローリストブースと花に囲まれたカフェース。
ここは、花の素晴らしさを実感できる、
とっておきの空間です。



公式HP <https://fukuoka-effect.jp>

西の丘 エフェクト

検索

〒819-0046 福岡市西区西の丘2丁目1
TEL 092-407-6113 MAIL info@fukuoka-effect.jp

和牛専門店

天穂 tensui
肉処

美味さ技あり。

天穂には黄金の肉がある。



肉処 天穂 ■営業時間 ●ランチ/11:00~14:30 ●ディナー/17:30~23:00(オーダーストップ22:30)
■ご予約・お問い合わせ/TEL.093-513-2944 〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1丁目5-6

肉処 天穂

検索



株式会社 ハマダ
代表取締役 社長 山重 浩二



紫川大冒険

地元の河川の自然とその大切さを子供たちに知ってもらいたいと、北九州市と市教育委員会によって2000（平成12）年に始められた冒険企画。運営や内容を変えながら、現在は「かぐめよし少年自然の家」が母体となって、夏休みの小学4年生から中学3年生を対象に紫川中流域から3泊4日の行程で紫川の起点を目指す。



1日目。スタートから3時間半ほどで、この日のゴール地点、ます淵ダムの手前まで辿り着く。快晴！ みんな笑顔。昼食後はダムのほとりをさらに5kmほど歩いて今晚の宿、自然の家へ。



街から山へ、民家に挟まれた流れはやがて緑にすっぽりと覆われ、水も冷たく、より清らかになっていく。所々で勢いを増す流れに逆らいながら、時には岩を登り越えていく。

川のほとり



のものがたり。

川に背を向けなくて

手元には「紫川散策マップ」と題された蛇腹開きの絵地図がある。「タカミヤ・マリバー環境保護財団」でもらったものだ。福智山系を水源に、まず渕野水池を経て小倉南区から北区を貫き響灘へ注ぐ紫川の起点から河口までの約22・4kmの様子を、周辺環境を交えて描いたもので、眺めれば、人の営みと川がどれだけ密接な距離にあるかがよく伝わる。

この地図を作成した財団の主幹「タカミヤ」は、戦後まもなく紫川に架かる常盤橋とくわのほとりで創業し、今では全国屈指の釣り具店となっている会社だ。自社の原点である紫川の環境保全に真摯に取り組んできたが、その活動の1つが川への稚鮎の放流で、今年の春で33年目を迎えた。こうした民間の環境保全活動の他にも、市ではハゼ釣り大会を催したり、夏の間定期的にかヌー体験を実施したりと、春から秋にかけて川のほとりは賑々しい。

でも昔は、街は川に背を向けていた。市の水環境課を訪れた時にそんな話を聞いた。

5市が合併し北九州市となったのは1963（昭和38）年のこと。それがきっかけとなったのか、同年から下水道事

業が急速に進み始めたものの、それまで生活排水や工業用水が流れ込んでいた紫川は、紫どころか「黒い川」と称されるほど汚れていた。悪臭もひどかったため、当時、川沿いの建物は当たり前のように川に背を向けて建てていたそう。その後、日明浄化センターが建設されて、小倉北区で下水道が普及し始めると、水は少しずつきれいになって、1980年代に入ると鮎が泳げるほどの水質まで改善。1987（昭和62）年には小倉北区中心市街地の河川と周りの環境を考える紫川マイタウン・マイリバー整備事業が立ち上がり、計画が進むにつれて、ほとりの建物も人も、ようやく川の流れる目を向けるようになっていった。

海と川が入り混じるところ

今、街の中心地、河口域の紫川の水がどれだけきれいなのか。この目で見られる場所が『北九州市水環境館』だ。ここには紫川の観察窓がある。

館のあるこの辺りは、川の水と海水が入り混じる汽水域。淡水より比重が重い海水がくさび状に流れ込んで、水中で2つの層を成すのを見ることができる。それゆえ生態系も豊か。護岸やコンクリート壁には牡蠣もすんでいるし、川の水温が上がるお盆前には大きなナルトビエイも顔を出すそう。さて後編は、この河口域から紫川の上流に向かって、時々支流に寄り道しながら旅してみることにする。



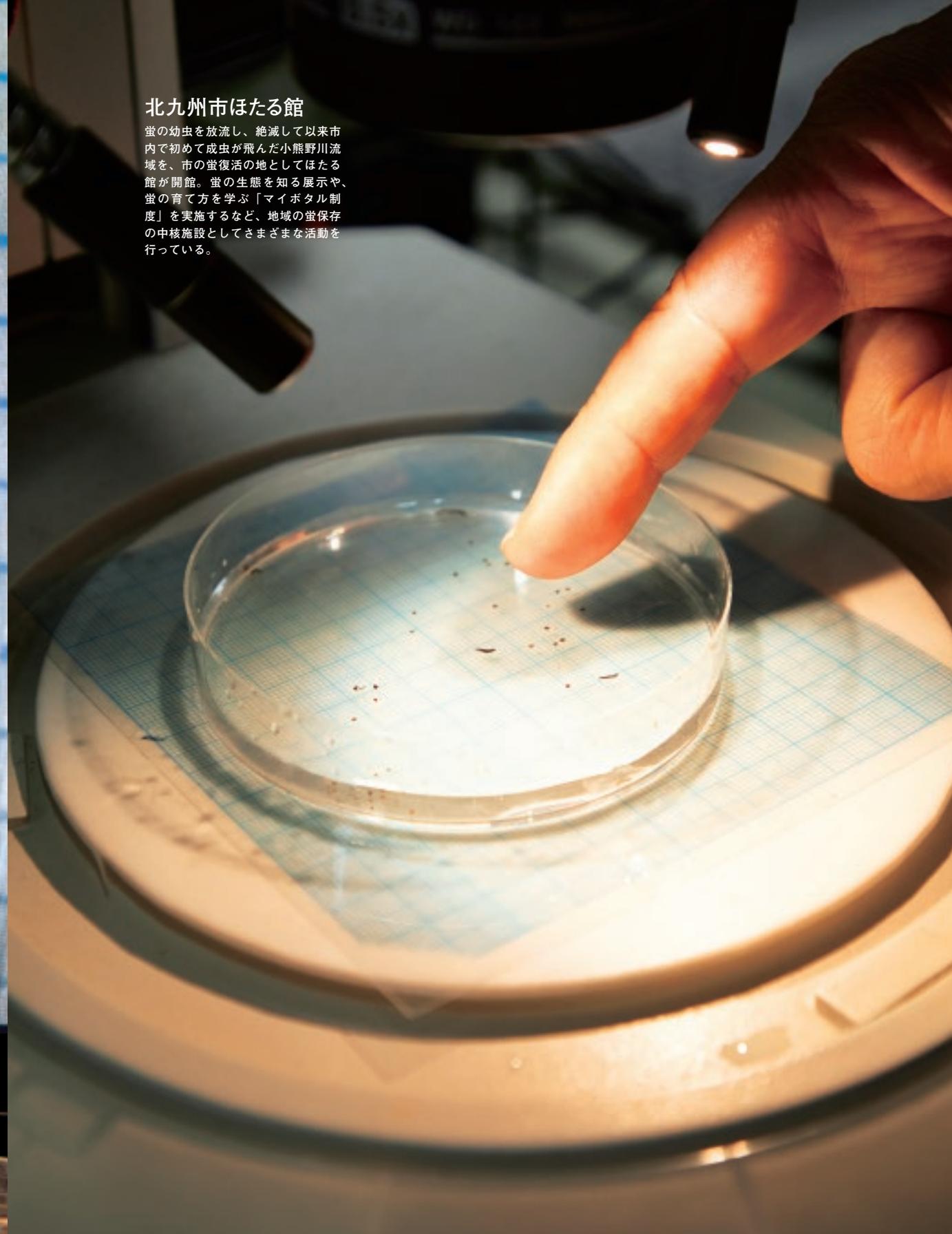
北九州市水環境館

紫川の生態系を、自分も魚になった気分で見ることができる「河川観察窓」を併設し、紫川と街と自然の関係を知ることができる。奥の展示室には、紫川とその周辺に生息するさまざまな生物が飼育され、それらを間近で観察することができる。



北九州市ほたる館

蛍の幼虫を放流し、絶滅して以来市内で初めて成虫が飛んだ小野川流域を、市の蛍復活の地としてほたる館が開館。蛍の生態を知る展示や、蛍の育て方を学ぶ「マイボタル制度」を実施するなど、地域の蛍保存の中核施設としてさまざまな活動を行っている。





溝上酒造

1844（弘化元）年、大分県中津市で創業し、1931（昭和6）年に、皿倉山の豊富な伏流水を求めて今の場所へ蔵を移す。溝上智彦さんと8代目。蔵の看板「天心」は、果実のような豊かでふくよかな香りが評判で、くせがなく、食事を選ばないのも人気の秘密。



指差しているのはちりではない。生きている蛍の幼虫である。マイクロスコープで拡大すれば、ええ！あの幻想的な光のイメージとはあまりにかけ離れたビジュアル。思わず『北九州市はたる館』館長の顔を見やると、館長の目が「知らなかったやろ」と言わんばかりに得意げに光ったように、見えた。ほたる館は、紫川の河口から約3kmほど進んだ場所で開催する支流、小^{おぐまの}熊野川沿いにある。ここ小^{おぐまの}熊野川流域は1960年代から宅地開発が進んで、いつとき生活排水で汚染されてしまっていたが、住民の清掃活動の甲斐もあり美しく蘇った川だ。一度絶滅した（ゲンジ）蛍が、再びこの川

に飛んだのは1980（昭和55）年のこと。住民は清掃の賜物と喜んだが、実はこの蛍、前年にとある人の手によって、そっと放流された幼虫が育ったものだった。とある人とは、当時、中学校の教諭だった中村光男さん。放流の20年近く前から蛍の保護繁殖を行っており、その後、市の蛍と水辺環境の保護活動の中心を担っていった人だ。中村さんのような先人の活動に感化されて、その後各地域で蛍と川の環境を守る市民の会が発足。こっちの水は甘いぞ、とばかりに清掃活動に精を出している。その甲斐あって、毎年、市内の70以上の河川で蛍が観測されているというから驚きだ。この日、たまたまほたる館へやって来ていた中村さん本人と会うことができた。80歳になられた今も研究は続けてい

こっちの水は甘いぞ



上・ちょっと怖いぐらいに大きくリアルな蛍の幼虫と成虫の模型。中央・昼夜を逆転することで昼でも光を放つヘイケ蛍を観察できる。下・施設では館長自ら蛍の幼虫を育てている。





芳野商店

材料にはとにかくこだわっている。主力商品である納豆は、福岡県産大豆「ふくゆたか」を使い、自慢の水を使って仕込む。上・3代目の芳野信さん。右・たっぷり水を含ませながら大豆を洗う。右上・納豆同様、こんにゃく、とろろの味も水が命。



て、今は平尾台のゲンジ蛍について調べているという。当時20代だった中村さんは、宿直室でたまたま見た蛍の光に感銘し、絶滅しかかっている種を復活させたいと思い資料を漁った。それから50年以上。後に続く方がたくさんおられてすごいですね、と言うとそれには答えず、「ふんわりと飛ぶ蛍の光に情緒を感じる感性は日本人ならではのなんですよ。新幹線の停車駅からわずか4 km圏内で蛍が飛ぶ川がこと合わせて3カ所もあるって、すごいことです」と笑った。

館内を案内され、だいぶ蛍に詳しくなった帰りしな、もう一度幼虫の部屋を覗く。ギョツとしてすまんよ、おチビちゃん。今度は蛍の時期に訪ねたい。

名水同級生

いったん紫川沿いを離れ、紫川のさらに西側を流れる板櫃川の流域へ足を伸ばす。八幡東区の帆柱山系、北九州国定公園の一部にも指定されている皿倉山に源を発し、小倉北区の旧市街を流れるこの川のほとりで、豊富な伏流水を利用して酒造りをするのが『溝上酒造』だ。

酒造りの80%は水の力で決まる。水はそれだけ大事なものの、そう話すのは当主の溝上智彦さんだ。仕込み水という言葉をよく聞くが、醸造する際に使う以外にも、たとえば米を洗うだけで30トンもの水が必要とする。質はさることながら量も豊富にあつてこそ、この仕事が続けられる、と。今、蔵の敷

地には4つの井戸がある。どれも微妙に水質が違うとのこと、バランスを取りながら使い分けている。皿倉山の水はどちらかというと軟水で、酵母のエサになるミネラルが少ないため、じっくりと時間をかけて、低温でもろみを発酵させていくそう。

溝上さんが言う。「ぼくが目指している酒の味は、香りも味も濃くてインパクトがある酒というよりは、飽きずにじっくり飲み続けられる味。うちの酒を飲んだお客さんはみんな、「優しい」と言うんです」

いつも心に留めて醸しているのは、料理の邪魔をしない、なめらかな口当たりと香りの優しいお酒。日本酒離れといわれて久しいが、飲み慣れていない20〜30代の若い人に、うまいと言ってもらえる酒を造っていきたく、まあいい笑顔で話す。お人柄も酒の味に醸されるのではないかと。後日、買収求めた皿倉山の水と八幡の米で仕込んだ「純米吟醸 天心」を飲みながら、そんなことを思った。

『溝上酒造』を辞して次に向かったのは、板櫃川の支流にあたる槻田川のほとりである。

「創業して87年になるんですが、最初は豆腐を作っていました。親父の代でこの場所に移ってきたのが1970年。うちの作るものは水がなくては成り立たない。とにかく水を使いますし、商品の味も水次第です。1980年にポーリングして井戸を掘って。親父が検査機関に持っていったら、「立派な水」とお墨付きをもらったそうです」



全日本紫川 ダンボールボートレース

某テレビ局の「鳥人間コンテスト」から着想し、スタートした「全日本紫川ダンボールボートレース」は、今年記念すべき第10回を数えた。親子の部、一般の部合わせて43組がエントリーし、オリジナリティあふれる船で熱戦を繰り広げる。



親子、友人、同僚と年齢もさまざまな市民が必死にパドルを握り、とにかくゴールを目指して漕ぎまくる！

そう話すのは『芳野商店』の芳野信さん。だからパッケージにも水のこだわりが出ていますね、と、こんなにやくの商品名に添えられた「皿倉山伏流水使用」という文字を指すと、「近くに溝上さんで酒蔵あるでしょ？」と芳野さん。あの日の晩、「天心」を飲んでいたところ、酒瓶にあった「皿倉山伏流水で仕込んだ」という文言を見つけ、「うちもだ！」と気づいた。さっそく、溝上さんに連絡、うちも使ってもよいかと聞いたという。「いや、親父と溝上さんの会長が八幡高校の同級生で」そう言って笑う芳野さん。名水生まれの名産品の意外な関係。こりゃ、なんだかおもしろい。

紫川ふたたび

翌朝、午前9時30分。河口から16kmほどの距離にあたる小倉南区道原に来ていた。今日から2日間、『かぐめよし少年自然の家』が主催する夏休み恒例の体験学習が行われる。その名も「紫川大冒険」。名前を聞いただけでワクワクするが、参加できるのは小学4年生から中学3年生まで。ウェットスーツを着用して川の中を歩いて起点を目指すという。

「台風でね、日程は短くなってしまったけれど、気を抜かないように、がんばってゴールまでたどり着いてほしい」

自然の家の所長・上原浩二さんの挨拶の後、みんなで円陣を組んで気合いを入れ、いよいよ出発。所長の言う通り、本来なら3泊4日の日程を、今年は台風の動きを鑑みて1泊2

日に縮めた。距離としては約7kmほど短くなったわけだが、川を遡上するのである。登り坂なうえに水の抵抗だつてある。きつと思っている以上に体力を使うはずだ。

見送りに来ていたお父さんお母さんと共に、橋の欄干で待っている、来た来た。水深は胸ほどまであって、進むのも大変そう。「冷たいやろ〜、がんばって楽しんでおいで〜」。親たちは子供らに声援を送る。隣にいた男性に話しかけた。小学校6年生のおくんのお父さんは「うちの子、もう3年連続参加してるんです。俺と一緒にこんなこと大好きなんですよ。ほんと、俺も参加したいくらいですよ。毎年、終わってすぐは、もう行きたくないと言ってますけど、今年も参加している」と言って笑った。

スタートして100mほどで、流れは2手に分かれた。ここで見送りの家族ともお別れ。大冒険一行を率いる山口隊長が、「おーい、みんな地図を覚えてるか？ 右に行くか左に行くか？」と問いかける。右正面は菅生の滝に続く細川、左が紫川上流。こうやってただ歩くのではなく、方向や地形を確認しながら、自身に考えることをさせる。大冒険は足場の悪い道をただやみくもに進むのではなく、友達と助け合い、そして川を環境を知るための旅なのである。

翌朝、『かぐめよし少年自然の家』を訪ねた。昨日3時間ほどをかけてます淵貯水池に到着した隊は、昼食後、自然の家を目指し貯水池脇の遊歩道4・9kmを徒歩で歩き、テントで野営したという。少年たちはたった1日で日に焼けていた。

水よ、川よ、故郷よ。

北九州、水にまつわる情報ページ。



豊かな水辺の環境を後世に伝えたい。 タカミヤ・マリパー環境保護財団

1993（平成5）年設立の財団の前身は「紫川に鮎を呼び戻す会」。戦後、紫川に架かる常盤橋のそばで創業した釣り具メーカー『タカミヤ』の創業者・高宮義諦氏の活動の遺志を引き継ぎ、今に至る。マリパーとはマリンとリパーを合わせた造語。「マリパー・エイド」と称した流域の清掃活動を行う団体への助成や、「マリパー号」という名の車両で海岸線や川沿いを定期的に巡回清掃を行う。環境シンポジウムの開催や、年に1度の稚鮎の放流会など、市民と一体になって、多岐にわたる環境保全活動を繰り広げている。

●八幡東区前田企業団地1-1（株）タカミヤ内
☎093-661-3194



水をデザインする会社。 takagi（タカギ）

1961（昭和36）年に設立した『Takagi』は、「くらしに、みらいに、活かす水」をテーマに散水用品の開発、製造販売を先駆けて行ってきた会社。代表者の高城寿雄氏は、金型製作の技術者でもあり、また大の発明好きで、常に消費者が求める商品作りを探索。そのスピリットは社にも活かされている。商品の企画・設計を全て自社で行い、水道水を有効活用しようと、省スペースな家庭用の蛇口一体型浄水器をいち早く売り出したことでも有名だ。個性的なテレビコマーシャルを記憶している人も多いかもしれない。

●小倉南区石田南2-41
☎093-962-0941



紫川のイベント、こんなにあります。 北九州市建設局河川部水環境課

マイタウン・マリパー事業を要に、川と市民の距離を縮めるべく、紫川流域では長年にわたってさまざまなイベントが行われている。特集内で紹介した「全日本紫川ダンボールボートレース」の他にも、下流に生息するハゼを釣って検量を競う「紫川・市民ハゼ釣り大会」は、市民なら誰でも無料で参加可能。カヌーで川下りを楽しめる「100万人のカヌー体験」は観光客も気軽に参加できる。川を泳ぎ、近くの勝山公園を走るトライアスロン大会「紫川フェスティバル」は、市民以外も参加できるイベントで、200人を超える参加者の応募がある人気のイベントだ。

●小倉北区内1-1 北九州市役所
☎093-582-2491

北九州市ほたる館

小倉北区熊谷2-5-1
☎093-561-0800
9:00～17:00
火（祝日の場合は水）・
年末年始休

北九州市水環境館

小倉北区船場町1-2
☎093-551-3011
10:00～19:00
年末年始休



平尾台の麓で141年。 無法松酒造

1877（明治10）年、福智山系・平尾台の麓で創業した『無法松酒造』。周囲は棚田で有名な井手浦や、タケノコの産地でもある合馬竹林など、自然豊かな場所に囲まれている。北九州市に2軒しかない酒造のうちの貴重な1軒では、水源の森百選にも選ばれた福智山系の伏流水を使って酒を醸す。酒造りにも使われる仕込み水は湧水スタンドで販売も。看板銘柄「無法松」をはじめ、1970年代からは焼酎の醸造も開始。酒粕を原料とした粕取焼酎や、麦焼酎など一年を通じて酒造りに励んでいる。

●小倉南区大字新道寺310 ☎093-451-0002
売店 月～土 9:00～17:00（日・祝 10:00～）
本休（G・W、お盆、年末年始休）

溝上酒造

八幡東区景勝町1-10
☎093-652-0289
売店 9:00～19:00
土のみ早じまいあり。
日・祝休

芳野商店

☎093-651-2416
受付 9:00～17:00
（土日祝を除く）



ゴジラに負けぬ形相で必死にゴールを目指した「スエヒロⅡ号」が、今年の一一般の部優勝に輝いた。

そして行動がすこーしだけテンポアップしてる?!
ウエットスーツの着方もスムーズに、さっそく、紫川の起点を目指す。昨日通ってきた人の暮らしのそばを流れる川の顔とはずいぶん違う、緑に包まれた景色。川へ手を浸すと頭の芯まで一気に冷えた。

「山の一滴が川になるということを頭に入れて歩いてみる」と、隊長。「はい」と答える少年の声が太くしつかりしたように思えるのは気のせいかな。紫川は、山の神川と吉原川、2本の川がぶつかり始まる。その2本の川が合流する場所は小さな自然のプールになっていて、ボランティアスタッフも一緒に水かけ合戦をするのを見ながら、はるか昔の自分の夏休みを思い返した。

水から上がってきた一行に、どうだった？ と話しかけると「疲れたけど超楽しかった」と。軽いな。3泊4日だったら違ってくるのかな。まあ、大人の望むような答えはいらないよ少年たち。小学生の時に大冒険に参加して、大学に入ってボランティアとして戻ってくるスタッフがいるように、経験はちゃんと体が記憶する。故郷に川が、清流があることを誇りに思い、誰かに伝えたい日が続くと来るはずだ。

日差しを浴びながら、飽きずに紫川を眺めている。川に親しみたいがためにダンボールの船で競走しようなどと、誰が言い始めたのか。平和だ。でもパドルを必死で水に刺す北九州市民がいとおしい。紫川はそんなから騒ぎには目もくれず、今日も悠々と、水面をキラキラと輝かせ、流れていく。

西日本の物流拠点 北九州“ひびき灘”

港湾物流
施設用地

好評分譲中!!

可也域



豊かな水環境の創造と持続を、 北九州から国内、そして世界へ

北九州市の上下水道事業を支える「**市内事業**」
 近隣事業体の上下水道事業を支援する「**広域事業**」
 北九州市の海外水ビジネスを支援する「**海外事業**」
 この3つを事業領域として上下水道事業の持続と発展を支援します。

北九州市内事業

北九州市内における浄水場の運転や浄化センターの中央操作等を行い、上下水道ライフラインの維持管理を担います。さらに、人材育成・技術伝承プログラムを開発・提供することで、維持管理の時代に向けた上下水道技術力の継承と発展を推進します。

広域事業

北九州市内で蓄積した技術力と、株式会社としての柔軟性・迅速性を活かし、北九州市近隣の上下水道事業体の運営を支援します。また、運営業務を標準化・汎用化し、「技術継承基盤」として多様なニーズに柔軟に対応します。

海外事業

「北九州市海外水ビジネス推進協議会」の事務局業務を担うとともに、市の第三セクターとして発足した弊社はこれまで北九州市上下水道局が実施してきた海外技術協力の実績をベースに、独自の海外水ビジネス案件の発掘に努めていきます。



メリット1



大型港湾施設の
背後地

メリット2



多機能で便利な
交通インフラ

メリット3



21,000円/m²からの
安価な用地

メリット4



賃貸用地
としても利用可



ひびき灘開発株式会社 開発企画課

〒808-0024 福岡県北九州市若松区浜町1丁目18-1 TEL.093-771-6132



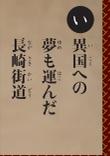
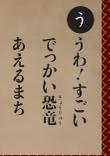
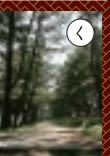
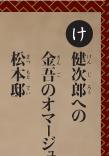
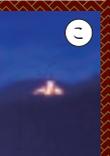
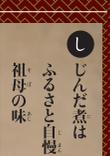
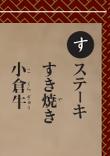
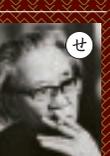
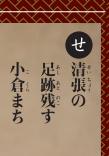
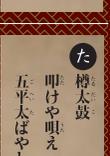
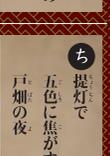
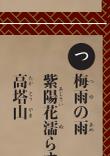
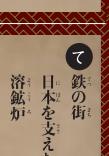
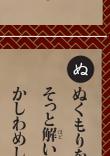
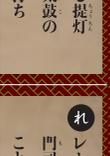
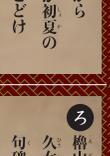
ホームページ
簡単アクセス



株式会社北九州ウォーターサービス

〒802-0001
 北九州市小倉北区浅野3丁目8番1号AIMビル4階
 TEL 093-533-4343 FAX 093-533-5354
 ホームページ <http://kitakyuws.co.jp/>

北九州市は、多くの魅力にあふれています。この場所に会いに、出かけませんか？

 あ 小倉城	 あ 優雅な姿 小倉城	 い 異国への夢 長崎街道	 い 異国への夢 長崎街道	 う うわ！すごい あえるまち	 え 江戸めざし 常盤橋	 え 江戸めざし 常盤橋	 お 海外の往時 小倉の日記	 お 海外の往時 小倉の日記
 か カルストの羊群れ 平尾台	 か カルストの羊群れ 平尾台	 き 九州と本州をつなぐ夢の橋	 き 九州と本州をつなぐ夢の橋	 く 雲の峰 シユガロードの松並木	 け 健次郎への金吾のオマージュ 松木邸	 け 健次郎への金吾のオマージュ 松木邸	 こ 小文字の迎え火 盆の入り	 こ 小文字の迎え火 盆の入り
 さ 皿倉山に百億下ルの夜景あり	 さ 皿倉山に百億下ルの夜景あり	 し じんた意はふるさと自慢の祖母の味	 し じんた意はふるさと自慢の祖母の味	 す スターキすき焼き 小倉牛	 せ 清張の足跡 小倉まち	 せ 清張の足跡 小倉まち	 そ 曽根干海 生きてる化石 カプトガニ	 そ 曽根干海 生きてる化石 カプトガニ
 た 樽太鼓 叩けや唄え 五平太ばやし	 た 樽太鼓 叩けや唄え 五平太ばやし	 ち 提灯で五色に燃やす戸畑の夜	 ち 提灯で五色に燃やす戸畑の夜	 つ 梅雨の雨 紫陽花満ちる 高塔山	 て 鉄の街 日本を支えた 溶鉱炉	 て 鉄の街 日本を支えた 溶鉱炉	 と 殿様も ちうといつかく 銀倉屋で	 と 殿様も ちうといつかく 銀倉屋で
 な 七色の煙 煙霧り替え 青い色	 な 七色の煙 煙霧り替え 青い色	 に 人情が 且過市場の かくし味	 に 人情が 且過市場の かくし味	 ぬ ぬくもりを そと解いて かしわめし	 ね ねりあげる 最高潮の 黒崎祇園	 ね ねりあげる 最高潮の 黒崎祇園	 の 農民の 命をつないだ 猿嶺新田	 の 農民の 命をつないだ 猿嶺新田
 は 春の味 合馬のたけのこ 日本一	 は 春の味 合馬のたけのこ 日本一	 ひ 汗が飛ぶ 夏祭り	 ひ 汗が飛ぶ 夏祭り	 ふ 古き住き 時代とどめて 門司港駅	 へ 部崎から 船人見守る 清慮さま	 へ 部崎から 船人見守る 清慮さま	 ほ 僕たちの 元気を集める 向日葵	 ほ 僕たちの 元気を集める 向日葵
 ま 孫次郎 戸畑の空を ひとりじめ	 ま 孫次郎 戸畑の空を ひとりじめ	 み 水しぶき 化粧美人を 管生(音)にし	 み 水しぶき 化粧美人を 管生(音)にし	 む 結ぶ五市 ひとつになって 北九州	 め メガネ橋 ダムを彩り 歴史を語る	 め メガネ橋 ダムを彩り 歴史を語る	 も ちたない 捨てずに再生 エコタウン	 も ちたない 捨てずに再生 エコタウン
 や 焼うどん 小倉の味を 楽しもう	 や 焼うどん 小倉の味を 楽しもう	 ゆ 揺れる提灯 祇園太鼓の 歩き打ち	 ゆ 揺れる提灯 祇園太鼓の 歩き打ち	 よ 夜宮から 菖蒲が初夏の 香をとどけ	 ら 落陽で 真っ紅に染まる 千景殿	 ら 落陽で 真っ紅に染まる 千景殿	 り 遠とたつ 東田高知 枝の街	 り 遠とたつ 東田高知 枝の街
 る 流転の日 美奈子の思い出 海峡に	 る 流転の日 美奈子の思い出 海峡に	 れ レトロとは 門司の港の ことなりと	 れ レトロとは 門司の港の ことなりと	 ろ 櫛山荘 久安多佳子の 句碑いただき	 わ 若戸大橋 洞海湾を ひとまたぎ	 わ 若戸大橋 洞海湾を ひとまたぎ	 を 故郷と 河童を愛した 火野葦平	 を 故郷と 河童を愛した 火野葦平

●遊びながら、楽しみながら北九州市の魅力や歴史・文化を「学び」「知る」ことができる『北九州市ふるさとかるた』
この場所について知りたいと思ったら、北九州市ふるさとかるた「<http://karuta.lets-city.jp/>」をご覧ください。 **北九州市ふるさとかるた** 🔍検索

*アンケート

『雲のうえ』29号をお読みいただきありがとうございます。ご感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望を、縦じまはがきでお寄せください。抽選で13名の方に以下のプレゼントをお贈りいたします。2019年4月15日消印有効。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
*応募はおひとりさま1号につき1通に限らせていただきます。複数応募は無効となりますのでご注意ください。

- A: 北九州一東京羽田間往復航空券目録 (株式会社スターフライヤー) ⇒ 1名様
- B: ホテルペア宿泊券 (アクティブリゾーツ福岡八幡・ステーションホテル小倉・千草ホテル・ホテルクラウンパレス北九州・ホテルクラウンパレス小倉・プレミアムホテル門司港・リーガロイヤルホテル小倉) ⇒ 各1名様 *ご希望のホテル名をお書きください。
- C: 北九州市ふるさとかるた (北九州市にぎわいづくり懇話会) ⇒ 5名様
- D: 29号特別プレゼント 足立山妙見宮 (小倉北区妙見町17-2) からのご好意で、編集委員・牧野伊三夫がデザインした絵馬の引換券を先着30名様にプレゼントします。引換券を社務所(9:00~16:00)にお持ちいただければ絵馬と交換いたします。ご希望の方は、縦じまはがきのご希望欄に「絵馬」と書いてご応募ください。引き換え期間: 2019年1月16日~2月28日。

青雲／白雲
*特集「雲のうえ旅行社」・興味深く目を通しました。若い頃任んでいた北九州も、このように一日コースとして景色・人情・美味なるものを楽しむが回れることが分かります。 (神奈川県川崎市・69歳女性)
*手描きの絵に味があってとても良いと思います。市販のガイドブックには載っていない地元ならではのお店が紹介されているので、次回訪問の際にはぜひ立ち寄りたいです。 (群馬県高崎市・50歳男性)
*岡崎武志さんの書かれた文章を読み、門司港はレトロ地区しか行ったことがなかった。他のエリアにも足を伸ばして古本屋巡りをしたいと思いました。それと、TOTOのネオレスト型トイレの石けん、かわいいです！ (千葉市・25歳女性)
*定期的な欠かさず読んでいます。2人のライターの記事は、北九州の地域の生活感と食べ物味の魅力、ユニークな場所や人が小気味いい文章で紹介されていておもしろく読みました。Tanga Tableのモーニングが食べてみたいと思います。その文章からは味が伝わってくるような気がします。 (沖縄県那覇市・36歳男性)

*小倉は一度行ったことがありましたが、且過市場をぶらぶらしただけです。この旅日記があれば、ガイドブックとして大いに役立ちそうです。今までの記事を抜粋して自分の北九州ガイドを作り、いつの日か街をゆっくり歩いてみたいと夢見しています。(愛知県江南市・70歳男性)
*北九州とは緑もゆかりもなくイメージできるのは関門海峡と製鉄所、バナナの叩き売りと今夏の高校野球代表の折尾真真高校くらいです。しかし、本誌から感じたのは、北九州には訪ねたい場所がたくさんあるということ。いつかじっくり散策したい。(長野県千曲市・42歳男性)
*「万歩計と歩く旅」は、読めば読むほど情景が浮かび、自分もその場所にいるような気分になってきます。特に、3日目の「むつみ関門荘」の朝食が素晴らしい！ 要望は、福岡市内での設置場所を増やして欲しいです。 (福岡市・30歳女性)
*小倉の街や人が大好きです。毎月2回小倉に娘と来ていますが、ここで「雲のうえ」を見つけ、娘と笑いながら読みました。ずっと図書館に置いてください。(福岡市48歳女性)
*表紙の井村らさん、べつびんさんどすな。若いつてええなあとつくづく眺めております。28号の文字

がジャケットのポケットの上というレイアウトも惜しい。岡崎さんのエッセイは悪くはないが、牧野伊三夫さんの絵と相俟って、しみじみほのぼのできます。
*プレゼントで牧野さんのデザイン絵馬をいただいて早速、足立妙見神社で願い事を書いて奉納したところ、すぐに願いが叶いました。両親が48年前に結婚式を挙げたゆかりの神社でそんなミラクルが起きたことに驚いています。 (小倉北区・46歳女性)
*北九州のアジアを感じる特集を組んでください。(小倉南区・35歳女性)
*北九州は路面店でも個性豊かな洋服屋さんや古着屋さんが多くあります。ファストファッションとは一線を画す店を特集してもらいたいです。 (八幡西区・58歳女性)
*この時間の流れ、人の繋がり、ゆくり足で歩いているような誌面の流れ、テーマの選択、これからも頑張ってください。(福岡市・56歳男性)
おたよりをお待ちしております。縦じまはがきをご利用ください。掲載させていただいた方には、小さな記念品を差し上げます。

*北九州市民憲章

緑を豊かに
清潔で美しくまらします
きまりを守り
安全なまちにします
人を大切に
ふれあいの輪をひろげます
元気で働き
明るい家庭をつくります
学ぶ楽しさを深め
文化のおおむらにします

「雲のうえ」編集委員会
牧野伊三夫 有山達也
つるやももこ
発行
北九州市にぎわいづくり懇話会
☎802-00001
北九州市小倉北区浅野3丁目
811
☎093-55118152
☎093-55118152
(北九州市産業経済局MICE推進課)
制作経路・印刷
株式会社ゼンリンプリントックス
協力
北九州市のみなさま

次号予告 焼き鳥いかが？



最新の発行情報は、北九州市にぎわいづくり懇話会ウェブサイト (<http://www.lets-city.jp/>) でお知らせいたします。

*バックナンバー

- 『雲のうえ』22 特集・北九州うどん。
- 『雲のうえ』25 特集・ザ・関門海峡。
- 『雲のうえ』26 特集・工業都市の工業学校。
- 『雲のうえ』28 特集・雲のうえ旅行社。

◎『雲のうえ』を送付希望の方は、お名前、ご住所、連絡先の電話番号、ご希望の号を明記のうえ、1~2冊/250円分、3~4冊/380円分の切手を同封してお送りください。送付は1名様1号あたり1冊とさせていただきます。北九州市にぎわいづくり懇話会のHPで在庫状況を確認のうえ、お申し込みください。
☎802-0001 北九州市小倉北区浅野3-8-1
☎093-551-8152
北九州市産業経済局 MICE 推進課
『雲のうえ』送付係

KEIRIN 70

00



1954
高松本宮・早稲田計
北陸争奪戦中心の開催

1955
高松本宮・高松市立
市民会館中心の開催

1956
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1957
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1958
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1948
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1959
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1972
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1980
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1964
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1983
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1998
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

1995
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

2008
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

2009
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

2012
高松本宮中心
高松市立市民会館で開催

70
KEIRIN
70TH ANNIV.
SINCE 1948

すべての競輪人に、ありがとうを。

おかげさまで70周年、これからも競輪をよろしくお願いします。